

(5) 支援スタッフ部会

東北フォーラム2023 inみやぎ（11月30～12月1日開催）は、スタッフ部会のメンバーが協力して、対面での開催を通して「笑顔」や「つながり」を実感したイベントとなりました。

本人活動では、今年度も利用者が楽しく参加できる企画を実施しています。

(6) その他の活動

7月14日の白石会長が自由民主党宮城県支部連合会を訪問し、「物価・賃金高騰対策に関する要望書」を伊藤信太郎会長に提出いたしました。

その後、当協会の概要説明やコロナ禍における利用者を含む事業所の厳しい現状についても意見交換させていただきました。

宮城県の児童相談所と当協会の連携事業として、児童相談所が関わっている「障害のある児童」の援助について、当協会所属事業所より研修講師の派遣やグループホームの受け入れに関する「ワーキングメンバー」の協力もさせていただきました。

12月22日（金）に「施設長研修会」を実施いたしました。

岩手県知的障害者福祉協会の鷹嘴（たかのはし）副会長を講師に迎え、30名の参加がありました。テーマは「私を感じる利用者支援に関する意識のギャップ」で後半は、グループワークを行うなど、充実した研修となりました。

(7) 今後の主な予定

1月17日（水）…「宮城県障害福祉課との意見交換会」

3月 7日（木）…「権利擁護に関する研修会」及び「第5回役員会」

4月 5日（金）…「監事監査」及び「第6回役員会」

4月26日（金）…「第47回 定期総会」



* 編集後記 *

皆様、日頃より協会活動にご協力を頂き感謝申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は特に7月から9月にかけて、全国的にも例年を遥かに上回る猛暑の日々が連続しました。

秋がとても短く感じるという、今思えば異常な年だったように感じてしまいます。

そして、2024年元旦に能登半島で発生した最大震度7の巨大地震と沿岸を襲った津波。いつ起こるか分からない「自然災害の恐怖」に大きな衝撃を受けました。今後宮城県知的障害者福祉協会として、義援金の支援等を行っていきたくて考えております。

さらに、1月2日に羽田空港で発生した日本航空と海上保安庁の航空機が衝突した事故がありました。乗客及び乗務員379名全員が機内から脱出できたことは、海外からも「奇跡」と報じられました。今回の乗務員の対応は日頃から有事を想定して避難誘導訓練を実践してきた結果だと思えます。利用者を守る立場の施設・事業所にとっても避難訓練の大切さを再確認できたと感じます。

宮知福協だより

NO2

発行	宮城県知的障害者福祉協会
発行責任者	会長 白石 圭太郎
住所	仙台市宮城野区幸町4-6-2
発行日	令和6年1月 吉日

● 新年の挨拶 ●

宮城県知的障害者福祉協会 会長 白石 圭太郎
会員施設の皆様、新年となりましたが、本年もどうぞよろしくお願い致します。また旧年中は、当協会の活動に多大なるご支援を賜り感謝申し上げます。

まず、2024年は元日から能登半島沖の大地震から始まりました。犠牲になられた方々のご冥福を祈ると共に、今被災されている方々の無事を心から願っております。そして改めて、2011年の東日本大震災からとんとん時は流れました。連日のメディアからの情報もSNSからの情報も当時の記憶を鮮明に蘇らせます。天災は防ぐことはできませんが備えることはできます。会員施設の皆様におかれましても、今一度施設の備蓄や非常時の体制を見直しいただくようお願いを申し上げます。

また、施設運営に目を向けると今年度は報酬改定の年でもあります。日本知的障害者福祉協会が一丸となって、全体としてはプラス改定を得られたものの、折からの物価高騰、賃金上昇に対応しきれずはおりません。施設の声を正確に行政に届けることができるよう、宮城県協会としても対応してまいりたいと思います。

改めて、皆様の1年間の安全、無事を願って新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



● 令和5年度 活動報告 ●

(1) 役員会議 ①7月7日 ②8月25日 ③11月14日 ④1月17日

(2) 第46回定期総会（4月21日）

今年度の定期総会は対面での開催となりました。

宮城県障害者福祉センターを会場に行われ、宮城県保健福祉部障害福祉課の瀬川課長補佐より、宮城県の福祉行政の説明をいただきました。

(3) 東北地区知的障害者福祉協会 定期総会・施設長連絡会

今年度は青森県の「ホテル青森」で6月19日～20日に開催されました。

(4) 部会活動

今年度は部会議や研修会等を実施する等、計画通りの部会活動を実施しています。

今年度は、対面での会議や研修会を実施でき、交流や満足度が高まったと思われます。